私の3冊　井上那築

後輩に薦める2冊

谷川正浩（著）
覗いてみたい!? 先輩OTの頭の中―ぼくが臨床で大切にしていること
三輪書店，2006年発行

新人のころは先輩の臨床を見て「どう考えてああいうアプローチをしているんだろう？」などとても気になっていました．この本はそんな新人の皆さんの気持ちに応える内容となっており，実際の事例を交えて排泄や更衣など具体的なADL訓練や対象者との関係性の作り方までわかりやすく解説されています．専門的な言葉が少なくて読みやすく，今でも読み返すたびに初心に戻れる1冊です．

齋藤佑樹（編集），友利幸之助：上江州聖・澤田辰徳（編集協力）
作業で語る事例報告―作業療法レジメの書きかた・考えかた
医学書院，2014年発行

臨床で働いていると，職場や県士会・学会など，事例報告をする機会が訪れます．経験を重ねた今でも事例報告の準備には苦労します．この本はさまざまな作業療法士の目線からわかりやすく多数の事例報告が掲載されていて，作業療法のあり方を教えてくれています．人間作業モデルやボバースコンセプトなどの理論も簡単に紹介してあり，事例報告の入門書としてお薦めの本です．

自分の1冊

Glen Gillen（編著），清水　一・宮口英樹・松原麻子（監訳）
脳卒中のリハビリテーション―生活機能に基づくアプローチ［原著第3版］ 三輪書店，2015年

回復期病棟では脳卒中の方への介入が多く，そういった専門書も増えています．そのなかでもこの本は医学的な基礎知識はもちろん，ADLだけにとどまらず脳卒中後の子育てや自動車運転についてまで網羅してあり，脳卒中の方に対する作業療法のヒントが多く載っています．

また，各章の最後にはその章の学習目標や復習問題・ケーススタディが提示してあり，理論を臨床に活かすための橋渡し的な構成である点も読みやすく，時間があれば眺めています．

■いのうえ・なつき　作業療法士8年目　済生会神奈川県病院

私は卒業後，まず老人保健施設やデイケアに勤務し，現在は回復期リハビリテーション病棟の中枢神経疾患や整形外科疾患の方に作業療法を提供しています．新人のころは，解剖学や生理学といった基礎知識を学ぶことが精一杯でしたが，徐々に「作業療法って何だろう」という疑問をもつようになり，作業療法に特化した本も増えていきました．そのなかで対象者にとって意味のある作業に目を向けることが非常に重要だと考えるようになり，また，実際の事例を通じて学ぶほうがわかりやすいので，そういった本を中心に選定しました．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2017

2026/11/11 09:28:03